

●モラル・ハラスメントをご存じですか？●

1. 統合失調症を作りやすいダブルバインド



中尾 英司
(家族相談士・シニア産業カウンセラー)
■E-mail: sodan@jiritsusien.com
■Skype: kazokucounselor
■Web: 「中尾相談室」
■ブログ: 「あなたの子どもを加害者にしないために」

■1. 『親の言うことを聞かないことを禁ずる』第一次禁止令

「親の言うとおりにしていれば間違いないんだ」
「親の言うことを聞かないからそういうことになるんだ」
「親の言うことを聞かなくてそうなったんだから、もう知らん」

■2. 『親に対して異議申し立てをすることを禁ずる』第二次禁止令

「親は子どものためを思って厳しいことを言うんだ」
「お前のためを思って言ってるんだ」
「他人は耳障りのいいことしか言わない。こんな事を言ってくれるのは身内だけだぞ」

■3. 『逃げることを禁ずる』第三次禁止令

「何だかんだ言っても血のつながりがあるんだから」
「子の心配(世話)をするのは親として当然だ」
(実態は介入)
「親も年なんだから面倒見なきゃ」(by親戚など)

はい、3つの禁止令がセットになると見事にダブルバインド(二重拘束)の完成ですね。

- 1, 親の言うことを聞かないと罰が来ます。
- 2, 理不尽だと反抗すると、異議申し立てを禁じられます。
- 3, そして、逃げる事ができませんから、子どもは

あきらめて学習生無力症になるか、表だって反抗することも無い複雑なAC(アダプティッドチャイルド)の性格が形成されていきます。

*AC→特徴は、感情の抑制・他人の期待に添う努力・規律・いい子・穏便・波風立えず・我慢・妥協・忍耐・主体性の欠如・依存的・自縄自縛・消極的・慎重・上目遣い・長いものに巻かれろ・・・そして、抑圧された怒り。

ダブルバインドとは、人類学者ベイトソンが統合失調症が多発する家庭を数多く調査している中で見出した「コミュニケーション・パターン」です。実際、私も、強烈なパワハラ上司からダブルバインド攻撃にあい続けたあるとき、「自分の行動が自分のものではないような操られ感」を実感したことがあります。「ああ、これがあの統合失調症の前駆症状と言われる『妙な操られ感』か」と思ったものです。

ダブルバインドにやられた結果どのようになったかは「あきらめの壁をぶち破った人々」をご参照いただくとして、概略説明すると次のようになります。

自分の気持ちを抑圧し、自分の思いで行動する事ができず、ダブルバインドの使い手の操り人形(ロボット)となってしまうので、「妙な操られ感」や「自分が自分でない感じ」、「乖離感」を感じるようになります。自己の統合性が失われていくのですね。

ですから、このような支配にあい続けていれば、誰もが統合失調症になる可能性がある私も思っています。私は遺伝的にそのような素因があったわけではありませんので、環境因が大きいのと思っています。そして、ベイトソンが調べた家族のように、伝達されていく(世代間連鎖していく)のは、「ダブルバインドのコミュニケーション・パターン」ではないでしょうか。

私が出逢った上司は、部下をコントロールする手段として意識的にダブルバインドを使った確信犯(←実際うつになったり退職したりする人がいましたので犯罪です)でしたが、やっかいなのは無意識にやっている親です。存在不安のある親は、世間の常識に自分を合わせることによって安心を得ようとします。そして、自分が不安を見たくないために、わが子をもその常識のレールに乗せようとする訳です。学歴、就職、結婚・・・わが子の人生にことごとく介入してきます。しかも、そうすることが子を幸せに導くことであり、子どもを失敗させないことが親の勤めと自己洗脳していますから、大手を振って子を支配してきます。そして、我知らずダブルバインドを行使して、子どもに問題が出てくると、「なぜ?!」となってしまうのです……。

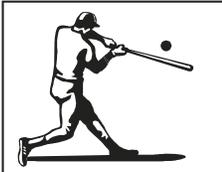
<続く>(中尾 英司)

※本稿はブログ「あなたの子どもを加害者にしないために」でもご覧いただけます。(ハビリオン編集部)



ほねほね講座(その47)

プロ・アスリートも信頼をよせるカイロプラクティック



ラクティックです。すでにアメリカの殆どのプロ・スポーツチームには、チーム医の一人としてカイロプラクティック医が常駐しており、チームの重要な一員として選手達のコンディショニングに貢献しています。

サッカー、野球、そしてバスケットボールなど、私達が小さな頃から憧れてきたプロスポーツ界で活躍するトップ・アスリート達は、恵まれた強靱な肉体を使って、華々しくスポットライトを浴びているように見えますが、舞台裏では自己のコンディションを維持し、常に最高のプレイが出来るようになるため地道な努力をしています。身体が資本である彼らにとって、例え怪我をしてしまっても、直ぐに治癒する事が出来る治療法は、喉から手が出るほど欲しいものです。ですから、彼らは豊富なりソースやコネクションを利用して、昔からありとあらゆる治療法を試してきました。そんな彼らの経験をもとにした多くの治療法が、最近では『スポーツ医学』として注目を浴びているほどです。そんなアスリート達の多くが、その即効性を認め、ここ20年ほど大きな信頼をよせているのがカイロ

当然ながら、痛みや体調のコンディションに気を配らなくてはならないのは私達一般人も同じです。激しいコンタクトを常とするプロ・アスリートとは土俵が違って、私達も長時間の前に座ったり、立ち続けたり、身体を曲げて何かを持ち上げたり、かがんだり、歩き続けたりと、知らないうちに背中や腰に負担をかけてしまう環境で仕事を続けています。怪我や痛みがあると仕事はかどらなくなったり、出来なくなってしまうという点についても同じです。また、私達一般人は、仕事以外でも毎日やらなくてはならない事が山積みになっていて、正常な状態でも時間が足りないほどです。それなのに、痛みや怪我のせいで動きが鈍ってしまったり、身体を動かす事が出来なくなってしまうのは生活に大きな影響を及ぼしてしまいます。



したがって、痛みが発生してしまった時、どれだけ早く痛みのない元の状態に戻せるか、という事は治療法を選ぶ上でとても重要なことです。そしてこの『元の状態に戻す』という事においてカイロプラクティックが効果的なのは、プロ・アスリートであろうと一般人であろうと同じです。しかも、カイロプラクティックがこれほどの信頼を得たのは単に即効性があるからだけではなく、痛みの根源を見つけ出し、その原因を取り除く事が出来るからでもあります。つまり、処方薬を使って、その場しのぎに苦痛を覆い隠す他の治療法に比べ、カイロプラクティックは長期的にも有効な処置法といえるのです。

どのような治療法と比較しても、カイロプラクティック以上に背中や腰の痛みを取り除いてくれるものはありません。そして一度カイロプラクティックを体験すると、少々の怪我や痛みを恐れずに仕事や生活をする事ができるようになります。これは、多少の障害が発生しても、カイロプラクティックが『元の状態に戻してくれる』という安心感があるからです。この安心感が、積極的な態度や行動につながり、より良い結果を生み出す、という点においてもプロ・アスリートと一般人の間に大きな違いはないといえるでしょう。

(中村ひろや)

◆本稿は一般的な医療情報の公開を目的としています。